

合志市地域公共交通協議会【平成20年度第6回】

[日 時] 平成20年11月26日（水曜日） 午前9時30分

[場 所] 合志市役所合志庁舎 2階大会議室

[出席者] 別紙のとおり

1. 開会

全員起立によりあいさつ

2. 協議会会長中園副市長よりあいさつ

本日は、お寒い中、早朝よりお集まりいただきありがとうございます。

5月に協議会を設置し、今回で6回目になります。本日は、これまで協議を踏まえまして、事務局でまとめました公共交通計画素案の全体をみていただきたいと思えます。これを了承していただきましたら、協議会として市へ提出したいと思えます。その後、市当局で計画策定の手続きを進めることとなります。それらのスケジュールについては、後ほど事務局より説明があると思えます。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

※会議資料の確認

3. 議題

(1) 公共交通計画本編の素案について

中園会長：まず、議題（1）について事務局より説明をお願いいたします。

事務局：資料に基づき説明。

中園会長：ご意見などはありませんか。

吉永委員：前回から申し上げます環状ルートの考え方について、今回は新たに大環状ルートとなっています。環状ルートを2案つくる必要があるかと、ユーパレス弁天を通る必要があるのか、と思えます。大環状ルートというよりも、387号線を通らずに、辻久保から合生住宅、野々島公民館、南原住宅と西合志庁舎を経由する環状ルート1本でよいと思えます。それから、この中で文言の統一性がほしいと思えます。西合志地区・合志地区や校区名、旧町名などあるため、地域区分に統一をお願いします。また、ゆめタウン光の森なども統一されていない表記がありますので、確認をお願いします。

事務局：環状ルートの考え方ですが、実証実験の段階では2案について実験運行し、最終的にはどちらかの案を採用することになると思えます。ユーパレス弁天を通るかかどうかについては、野々島からユーパレス弁天を通らずに、西合志庁舎へ至るルートでもよいと思えます。文言の統一や修正については、ご指摘のとおり修正を行います。

吉永委員：この素案のとおりでいけば、環状ルートは2案のまま計画に残るのではないかと思いますので、できれば1案に絞っておいたほうがよいと思います。

事務局：環状ルートについては、2案を記載するか、1案に絞って記載するか、本日の協議で決定していただければと思います。

杉町委員：朝夕の交通状況はわかりませんが、朝夕や日中の需要に応じた内外の環状ルートの運行方法を変えるなどの検討も必要かと思えます。その上でも、実証実験の段階では2案を残して、無理に絞り込んでおかない方がよいのではないのでしょうか。

中園会長：今のご意見のとおり、実証実験で2案を比較することは可能でしょうか。

事務局：将来的には2案とも必要になるかもしれませんが、比較した上で最終的にどちらかに決定することも可能です。また、乗り合いタクシーの実証実験との組み合わせで、外環状と内環状のどちらがよいのかもあると思います。

吉永委員：前日も申し上げましたが、合併後の東西の一体性という意味で、市民感情的に考えれば、外環状1本でつないで、その周りにミルクランバスや乗り合いタクシーなどを組み合わせる方がよいと思います。

荒木委員：商工会の立場で申し上げますと、現在、合志市内で食料品や日用品に関して約17%の買い物をさせていただいております。その中で、消費者の方から、合志市内のどこで何が買えるのかわからない、などのお話しをお聞きします。ですから、市内に直販所などを数多くつくっていただいて、地産地消の観点から地元の購買を宣伝したい。そのときに、買い物に行く交通手段が無い方のことを考えると、将来の運行ルートは、直売所で買い物ができるルートを考慮しておく必要があると思います。将来的に、地産地消にも対応できるような考え方をお願いしたいと思います。

中園会長：それでは、ここまでのご意見を踏まえて、できるだけ融通の利くようにしておいた方が、実証実験も都合がよいと思いますので、2案とも記載するよういたします。

溝上副会長：第5章の具体的事業の資料55ページの部分で、企業通勤バスの共同運行では、企業通勤者への啓発も踏まえて、モビリティマネジメントの実施についても記載を加えておく必要があると思います。それから、56ページの5-2-4の多様な主体の参加と連携に、県及び近隣自治体との連携をつけ加えておく必要があると思います。それから、第6章の60ページの新須屋駅については、交通拠点として記載が不足していますので、もう少しパーク&ライドやサイクル&ライドなどの重要拠点としての記載が必要だと思えます。三ツ石駅に関しても、重要な拠点整備が可能になると思えます。九州自動車道の高速バス西合志バス停を三ツ石駅へ移設すれば、熊本市方面などからの高速バス利用者の利便性がよくなると思えます。福岡方面からの帰りも熊本市内へ30分近く時間短縮が可能と思えます。高速道路会社との協議になると思えますが、合志市の構想として記載をしてお

くとよいと思います。北熊本サービスエリアのスマートインターチェンジ整備計画については、道路関係ですが、記載は必要ないでしょうか。

事務局：ご提案のとおり、企業通勤バスの共同運行にモビリティマネジメントの記載と、多様な主体の参加と連携に県及び近隣自治体との連携を加えます。また、新須屋に関しても、ご提案のとおり複合的な交通拠点としての記載を加えます。

松村委員：三ツ石駅に関しましては、駅を整備する際に、そのような意図も含めて造っています。当時、道路公団に高速バス停の移設について相談したところ、片面1億円の費用を負担してほしいとのことでしたので、当社独自ではできませんでした。考えとしては当時からあったことをご認識ください。駅やバス停の位置に関しましては、土地利用に合った位置も必要と思いますので、移設なども、その時の状況に応じて、お申し出などがあれば、検討をしていきたいと思います。

中園会長：高速バス停の移設に関しましては、実現可能性は別として、計画の構想として記載しておきたいと思います。

北熊本サービスエリアに関しては、県振興局土木部長から、何かありますか。

山本委員：北熊本スマートインターチェンジについては、合志市さんが関係自治体と積極的に取り組まれていることと思います。本庁から情報が少ないので、今後、協議などの中で、いろいろと教えてもらって考えていきたいと思います。

また、県との連携共同については、私は土木部でハード事業が専門ですが、取り組みとしては、これから総務振興課などのソフト事業の関係課を含めて連携していきたいと思います。お願いとしては、今後、私たちの知識では不足する部分もありますので、ソフト事業を専門とする部署から委員を入れていただければと思います。

中園会長：北熊本スマートインターチェンジ整備事業について、補足説明はありますか。

事務局：本事業については、市の重要施策と位置づけ、当企画財政課が担当となって事業を推進しています。現在、熊本市と連携し、社会実験に向けた法定組織の設立をするため、鋭意進めておりますので、この地域公共交通計画に記載する必要はないかと思います。

吉永委員：全体的なことですが、パブリックコメントの実施方法と、計画書印刷や配布の予定を教えてください。

事務局：パブリックコメントは、ホームページと庁舎などで素案の公表を予定しております。計画書の印刷と配布については、予算に応じて可能なかぎり印刷します。全世帯配布はせずに、各区への配布や支所などの常備を予定しています。概要版については、予定していません。パブリックコメントのスケジュールは、後ほどご説明します。

吉永委員：市民へパブリックコメント以外にも十分な周知の上、実証実験に取り組んだ方がよいと思います。

事務局：事前の周知については、広報誌でのお知らせや周知チラシなどの配布により、

十分に行います。

中園会長：他になければ、次の議題に入ります。議題（2）その他について説明をお願いします。

事務局：その他ですが、第5回会議録について、加筆・修正などはございませんでしょうか。

中園会長：無ければ、次のスケジュールについて説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明。

杉町委員：事業に認定申請についてですが、ここでは4月となっておりますが、3月を予定していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

荒木委員：会長にお伺いしますが、本協議会をはじめ、合志市には数多くの委員会や協議会があります。関係各課が担当する組織等の情報を共有するようなことは、内部で行われていますか。

中園会長：大きな計画などについては庁議で意見をもらうことはありますが、本協議会については庁議にかけたことはありません。

荒木委員：市のサービス向上の取り組みとして行っているのですが、部署によって知っている、知らないがないように、内部での情報共有が必要です。ひとつの事業に対しても、年次スケジュールを立てて集中して取り組む事が重要です。重要施策などは、特に管理職は情報を共有しておくべきだと思います。

中園会長：ご指摘のとおり、情報の共有化は重要だと思いますので、今後も努めて情報の共有化を図っていきます。

溝上副会長：独自に循環バスに乗り込んで、調査中です。現状としては、老人憩の家の利用が多く、利用者からはその他の利用がほとんどないと聞きます。皆さんは循環バスについて、どのように思っておられますか。今後の事業展開に大きな影響があります。

宮崎委員：私自身は、未だ利用したことがありません。今後、社会実験などで利用方法などが周知されていけば、利用が多くなると思います。

宮川委員：周辺の方にお聞きすると、市役所に行く方が多いようです。身障者の方は近くにバス停がないので、タクシーの利用が多いようです。

吉永委員：利用実態は以前から温泉利用が多いと思います。現状では、出発から目的地まで運行時間がかかったりしていますので、不便なところもあります。その点では、今回のような温泉直行バスはよい実験だと思います。また、市職員の通勤に利用するなど、目的別の運行も検討してよいと思います。

中園会長：既存の循環バスの考え方について、説明をお願いします。

事務局：既存の循環バスは、実証実験中は現状のまま運行し、その他に社会実験に取り組むこととしています。

中園会長：他になければ議題を終了します。長時間ありがとうございました。

事務局：それでは、これで第6回の協議会を閉会いたします。

4. 閉会（10時40分）